

足利市の強みであり、誇りでもあるのは、源氏から続く足利氏の深い歴史と、歴史の中で生まれてきた文化や文化財であると思います。

これまで足利市においては、文化財は貴重なものとして「守る。残す。」ということに主眼が置かれてきたように感じています。例えば、足利学校は全国の子どもたちが学校で「日本で最も古い学校」として学ぶ史跡です。この足利学校についても、主眼は「研究」におかれ、この価値ある史跡へ多くの人に足を運んでいただきその歴史的価値を知ってもらう、足利市内への経済波及効果を生み出していく、という視点は少なかったのではないのでしょうか。

もちろん、大切に「守り、残し」、研究していく、という視点はとても重要であると認識していますが、同時に、ここにまちづくりに「活かす」という視点を加え、より強力で推進していく必要があると考えています。

鎌倉も奈良も京都も、歴史と文化財があって多くの観光客が訪れる、観光都市として確固たる地位を築いています。

国においては、「文化観光施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律（＝文化観光推進法）」が制定されました。

国のとらえ方としても、従来の文化財行政は「保存」が重視され、これでは地域の魅力が伝わらない、→これからの文化財行政は「活用」を重視し、文化財を一体的に PR して地

域のブランド化、アイデンティティの再確認を目指す、というものとなっています。そして地方自治体は地域計画を策定し、主務大臣の認定を申請していくことになります。

現在、足利市観光協会では、「観光地域づくり法人＝観光 DMO」の指定に向けて準備を進められております。さらには、足利仏教会による「足利三十三観音霊場巡り」、足利市観光協会による「足利氏ゆかりの社寺のパンフレットと御朱印帳」など、文化観光の推進についてご理解とご協力をいただいていることは、本当にありがたく感じています。

文化財を活用し、外需を取り込んでいく観光のまちづくりを進めるため、足利市役所においても、新年度から「観光振興課」を「観光まちづくり課」へと名称変更し、「文化観光政策担当」を新設したいと考えています。

2月11日からいよいよ足利市立美術館において「戦国武将 足利長尾の武と美」が開幕します。それに先立ち1月15日から栃木県立博物館では「足利氏の軌跡」が開幕し、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」もスタートしました。足利市にとって大切な時期を迎えています。

文化・観光・経済の好循環によるまちづくりを進めていきます。